

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ABUW春日（保育所等訪問支援）		
○保護者評価実施期間	令和7年2月1日		～ 令和7年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	令和7年2月1日		～ 令和7年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	令和7年2月1日		～ 令和7年2月28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	セラピストを中心に資格保有者が訪問支援を行っており、障害の知識だけでなく身体の動きや姿勢、作業課題の面からも支援ができる。	評価表を活用し支援を行っている。 家族や訪問先の先生、他事業所や病院からも聞き取り情報を提供してもらい、評価を行っている。	様々な評価を試しながら、訪問支援に適したより良いものを探している。
2	毎週外部講師を招いて勉強会や事例検討会を行い、マンネリ化した支援・知識が偏った支援にならないように、日々支援に向き合っている。	各店舗ごとに勉強会を実施するのではなくZOOMで各店舗繋ぎ、情報や考えを共有するようにしています。 文章や口頭説明だけでなく、動画を活用し支援方法を具体的に動作で確認している。	社内の勉強会だけでなく、他で開催される勉強会・事例検討会にも参加するスタッフが増えていくように、定期的なアナウンスを行っていく予定。
3	訪問支援の報告を詳細に分かりやすく伝えるよう心掛けている。	訪問先（保育園・幼稚園・小中学校）での利用児童の様子が分かるようにしている。その行動の背景として考えられることはなにか、現在・その場でできる支援、ご自宅でお願したい支援、今後必要な支援などを適宜伝えるようにしている。	保護者様への報告が長文となることも多々あるため、読みやすいような報告方法を模索している。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問実施の際の評価・アセスメント表などの方法が決まっていない事	訪問支援員各自の慣れた方法で評価やアセスメントを行っている為、定まっていない	今後活用していく評価表を選別しながら、統一化を図る。
2	訪問支援員同士の対面・口頭での情報共有の場が少ないこと。文書で共有することが多く、意見交換に時差が生じる。	訪問支援員各自のスケジュールで動いており、事業所に居る時間が合わない為と考える。	事業所に居合わせる時間を固定化し、対面で情報共有や会議等行う機会を設定していく。
3	訪問先以外で利用児童や保護者と会う機会がほとんどなく、関係性を築くことに時間を要す。	訪問支援開始前のヒアリングや契約を行うスタッフの担当が決まっており、訪問支援担当スタッフが行うわけではないため、会う機会が少ない。 ABUWの事業所を利用していない利用者にも支援を行っているため、会う機会が少ない。	訪問支援担当が契約やヒアリングに同席する、訪問支援開始前に自宅や利用事業所に訪問し、関係性を築けるように、訪問支援員の行動をマニュアル化していく。